

スナップエンドウの出荷始まる

管内で栽培されたスナップエンドウの、今年度の出荷が5月1日(土)から始まりました。若美野菜選果場で集荷した男鹿地区営農センターの職員が検査を行い、「ニムラサラダスナップ」26キロが横浜丸中青果へ出荷しました。

同日出荷されたスナップエンドウは全量、昨年12月3日(木)に直播きしてハウスで栽培したものです。出荷した生産者は「甘みがある出来になった」と話しました。

同センター管内では今年度、13名の生産者がスナップエンドウを栽培しています。6月からは露地栽培で収穫が始まり、下旬に最盛期を迎える見込みです。

役員推薦会議を開催

今年6月に当JA役員任期が満了を迎えることに伴い、新役員の選任にかかる役員推薦会議が、5月7日(金)にJA秋田なまはげ会館で開かれました。

16名の推薦委員が出席し、新役員の候補者について審議を行いました。

各地域や女性部、青年部などの候補者推薦委員会などを経て選出された理事候補者23名と監事候補者6名の略歴が紹介され、審議のうえ29名全員の推薦を決定しました。

6月25日(金)に開催する第4回通常総代会に役員選任に関する議案が附議され、新しい役員が決定されます。

初出荷のスナップエンドウを検査する職員



役員候補者の推薦について審議しました



NEWS & TOPICS

管内で田植え期を迎える

当JA管内で5月から6月にかけて、生産者が田植え作業に汗を流しました。

5月14日(金)には、潟上市天王に設置された新品種米「サキホコレ」の展示圃で田植えが行われました。生産者は田んぼの中を田植え機で軽快に往復し、30分ほどかけて展示圃20アールの田植えを終えました。

田植え作業に参加した生産者は「高い品質を目指して、厳しい基準に沿って栽培している。生産者の努力に見合った高い評価がほしい」と話しました。

令和4年度の本格デビューに先がけて、管内では12戸の生産者が先行作付けしています。

「サキホコレ」の苗を田植え機にセットする生産者



小菊・スプレー菊の出荷開始

管内産の菊が、今年度の初出荷を迎えました。5月19日(水)から小菊の出荷が始まり、22日(土)からはスプレー菊が出荷されています。

男鹿地区営農センター管内では今年度、34戸の生産者が約15ヘクタールで菊の生産に取り組んでいます。盆と彼岸の2大需要期をメインに栽培しており、8月上旬に出荷のピークを迎える予定です。今年度は、2億1100万円の販売を目指しています。

同センターの花き担当職員は「これから病害虫が増える時期に入って防除作業が重要となるため、防除の徹底を呼び掛けていきたい」と話しました。

スプレー菊を検品する職員

